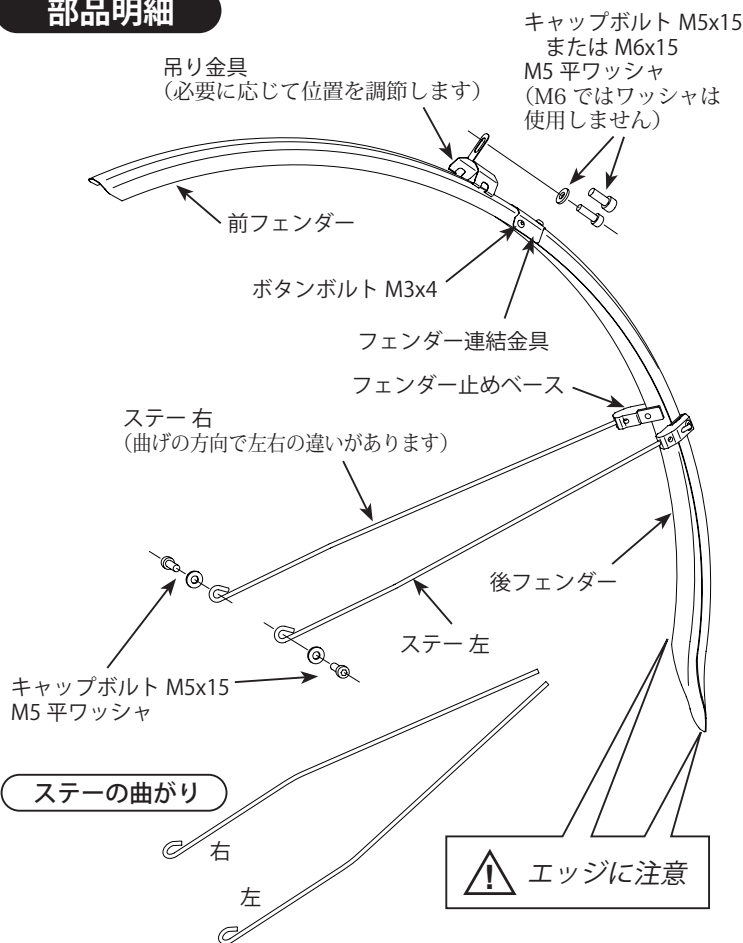


フロント用

「OODACHI / 大太刀」は、DYKシリーズのロングサイズ版として開発された自転車用フルフェンダー（泥除け）です。

一般的なフェンダーは再資源化が難しい樹脂素材でできたものが多い中で、DYKシリーズはリサイクルが容易な素材のみを使用した環境にやさしいモデルです。

部品明細



適合ホイールサイズ

26 ~ 28 インチ または 650c ~ 700c

フェンダー幅

47 ミリ (適合タイヤ幅は 45 ミリまで)

内容一覧

<本体側>

フェンダー (前・後)	...	各 1
ステー (右・左)	...	各 1
フェンダ連結金具 (内・外)	...	各 1
フェンダー止めベース、受け板、ホーロー セットボルト M4x3	...	2
キャップボルト M4x8	...	2
ボタンボルト M3x4	...	3

<袋部品 1>

吊り金具	...	1
保護テープ (22x55mm)	...	1
キャップボルト M5x15	...	3
キャップボルト M6x15	...	1
M5 平ワッシャ	...	3

<袋部品 2>

2 ミリ六角レンチ (M4 ホーロー用)
3 ミリ六角レンチ (M4 キャップボルト用)
4 ミリ六角レンチ (M5 キャップボルト)

※ M6 キャップボルト用の六角レンチは同梱されておりません。

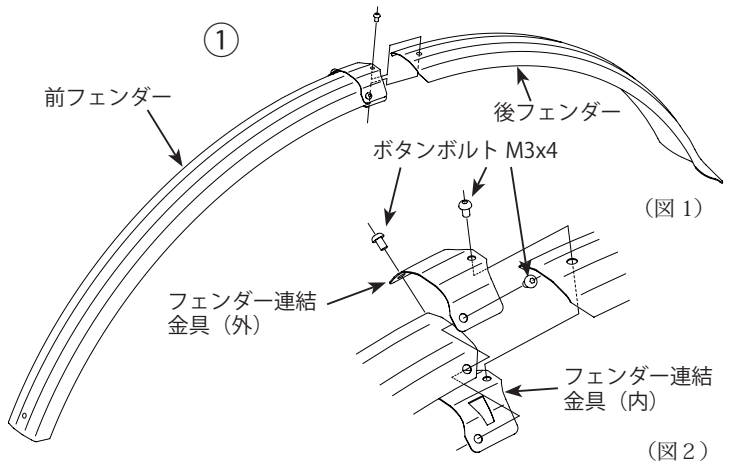
装着および使用上の注意

- 本商品は回転する車輪のすぐ近くに装着する部品となりますので、正しい装着がされていないと走行中に車輪に巻き込んだりして大変危険です。
本商品の装着は、自転車に関する整備上の一般的な知識および技能を有する方（販売店や整備業者）が行なうことを前提としています。必ずそれらの方に装着を依頼してください。
それ以外の方が装着を行なった場合の不具合や被った損害等については弊社ではその責任を負いかねますので、あらかじめご承知おきください。
- 走行前には必ず、本商品が確実に固定されていることを確認してください。
- 本商品が車体もしくは乗り手など（特につま先）に当たらないことを確認し、また本商品がハンドル操作を損なわないことを確認してください。
- ハンドルにぶら下げたままのバッグ等が当たったり走行中にフェンダーを足で押ししたりすると、フェンダーが変形し意図せず車輪に巻き込まれたりするので危険です。おやめください。
- ステーの長さを調節するため先端をカットする際は適切な工具を使用して行なってください。ニッパーやペンチでは切れません。クリッパーの使用をお勧めします。
- 先端は切りっぱなしでは尖っていて非常に危険ですので、必ず削って安全に丸めるようにしてください。
作業は平ヤスリでは材質的に困難なので、ステー単体にしてグラインダーを使用することをお勧めします。
- 使用中にもし異常を感じた場合はすぐに使用を中止して、装着を行なった整備士にご相談ください。
- 必ずしもすべての自転車に装着可能というわけではありません。車体によっては装着できない場合もあります。

取り付け方

① まず最初に前フェンダーと後フェンダーとを連結します。

前フェンダーとフェンダー連結金具とはあらかじめ仮組みしてあります。両脇の前フェンダーを止めているボタンプルトを緩め、さらに中央のボルトは抜きます(図1)。できた隙間に後フェンダーを挿し込み、外したボルトを締め込んで後フェンダーを保持します(図2参照)。



② 続いて吊り金具を前フォーク基部にある孔の背面にキャップボルト M5x15 もしくは M6x15 で仮止めします(図3)。

前フォーク基部に孔がないと当商品の装着はできません。また付属のボルトだけでは吊り金具の固定ができない場合は別途長いボルトとナットを用意して前フォークを貫通させて止めることになりますが、その際に必要となる部品は付属していません。別途ご用意ください。

③ 先に組み立てた前フェンダーを吊り金具下部の爪の間を通しながら前輪に沿ってあてがい、おおよその位置やタイヤとの間隔を決めます。

フェンダーは光沢のある金属製なので、細かな擦り傷が入りやすい材質です。注意して取り扱ってください。前フェンダーは基本的にどのような位置にでも装着可能ですが、一般的にはフェンダー下端が垂直よりやや前寄りになるのが泥除けとしては適当です(図3)。

④ 装着位置が決まったら、それを固定すべく吊り金具をフェンダーに装着します。

フェンダーの裏側には傷付き防止およびずれ止め用としてゴム板を貼ります。吊り金具は下部の4つの爪を内側に曲げ、このゴム板に食い込ませるようにして止めます(図4)。爪を曲げるには、先端に傷防止用のビニールテープ等を貼っておいたプライヤなどを使うといいでしょう。

⑤ フェンダーの適当な位置の縁をフェンダー止めベースとフェンダー止め受け板とで挟み込みます。

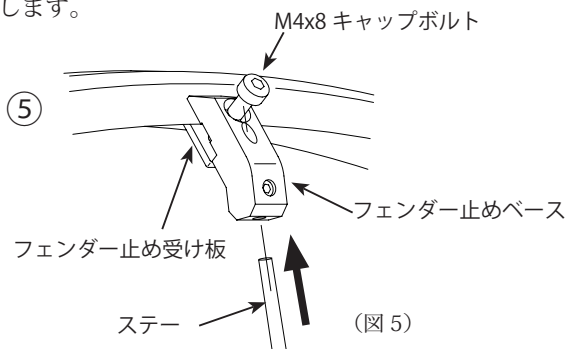
ベースと受け板とはキャップボルト M4x8 を締め込んで保持します。続いてステアをフェンダー止めベース下側の孔から挿し込みます(図5)。これを左右とも行ないます。

⑥ ステアの根本部をキャップボルト M5x15 で前フォーク部のダボ孔に止めします。

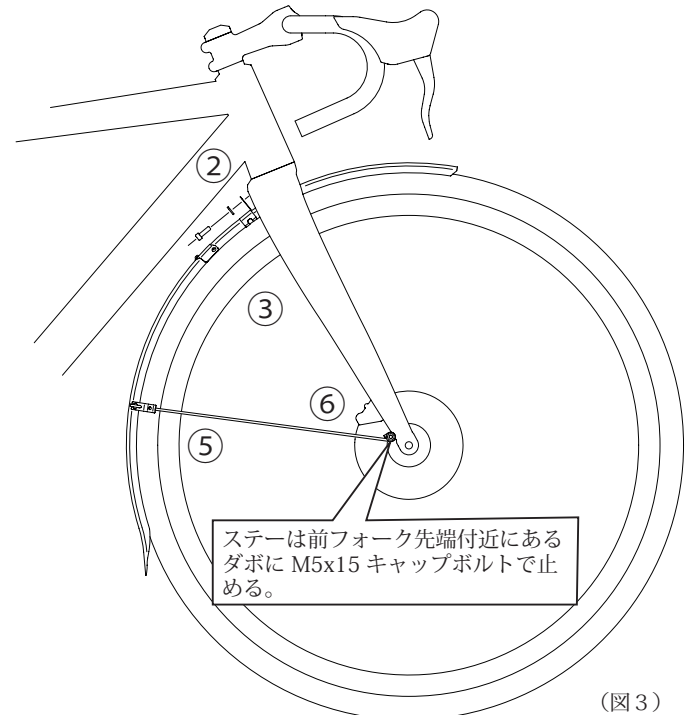
フェンダーとタイヤとの間隔が均一で適切になるようにステアの長さを決め、ホーローセットボルト M4x3 を締めて横からステアを押しやる形で保持します(図3、6)。

このときステア先端がフェンダー止め金具から飛び出していると危険なので、先端はできるだけ短くカットします。少なくとも M4x8 キャップボルトを回すのに邪魔にならない程度の長さにし、カットラインを油性ペンなどでマークします。

ステアを装着したままだと作業が困難なため、いったんステアだけを抜き、カットとグラインダによる研磨をしたあと再び戻します。



⑦ 最後にすべてのねじを増し締めして、しっかりと固定します。



もしダボがない場合は市販のダボ増設金具や、弊社の「EBバンド」を使って装着することもできます。



フェンダーやベースは決してタイヤと接触させないように位置決めてください。フェンダーが走行中に車輪に巻き付くと、急制動がかかったようになり前転してしまうなど大変危険です。

